

第5回体表解剖学研究会全国研修会 in 沖縄 に向けて

全国研修会長 河上敬介

(一社)体表解剖学研究会 監事・講義担当講師、大分大学福祉健康科学部)

熊本の杉村病院のスタッフ向けの触察セミナーが体表解剖学研究会の前身として始まり、20年を迎えます。この間我々は、肉眼解剖学的手法により骨格筋の位置や形を三次元的視点で詳細に観察してまいりました。そして肉眼解剖学的情報に基づき、可能な限り精度の高い触察技術の開発に至っております。また、体表からわかりやすい指標を用いて、かつ正しい解剖学用語で、誰もが共通の位置を理解できる伝達方法を開発し、その普及に努めてきました。一方、近年の超音波画像診断装置の発展と普及により、生体における運動器の位置をリアルタイムに把握することができるようになってきました。平成25年に開催した「第4回体表解剖学研究会全国研修会 in 高知」では、全研究会会員が超音波画像診断装置を体験し、自分の触察精度を確認し技術向上を図るための研修会を行いました。それから3年、愛知に続き、東京、四国、九州の各ブロックの研究会会員において、超音波診断装置による検証のできる環境が整い、日夜触察精度の向上に活用しています。それに加えて、超音波画像診断装置を活用し、解剖学・体表解剖学の知識や技術に基づいた臨床評価方法の検証や開発、および治療方法の検証や開発が、多岐にわたる分野の臨床で勤務する研究会会員により行われ始めています。そこで本全国研修会では「臨床評価手法における体表解剖学と超音波画像診断装置のコラボレーション」、「ステップアップ 解剖学と体表解剖学の知識と技術の臨床応用」と題して2つのセッションを設け、その成果を報告していただく研修会といたしました。

また、この沖縄の地の方々へ体表解剖学の重要性を感じ取っていただくためのサテライトセミナーを、「肩の触診に自信を持つポイントー臨床に役立つ肩関節周辺の解剖学と触察技術ー」と題して開催させていただきますことといたしました。本研修会を開催するにあたって、多大なご尽力をいただいた、すなわち内科クリニック 宜保幹雄先生、ナシン整骨院 宮城 肇先生をはじめとする諸先生方には深く感謝いたします。

この4月に九州で起こった大地震は、体表解剖学研究会発祥の地である熊本が震源地でした。よって、九州ブロックの研究会会員の皆様方やそのご家族の方々におかれましては、多大な被害や心労がございました。一方、熊本以外の全国の研究会会員の皆様方やその関係者の方々から、温かいお心遣いと沢山の支援をいただきました。被災された皆様方々へは心よりお見舞いを申し上げますとともに、支援いただいた皆様方へは心より感謝申し上げます。本研究会の厚い絆と団結力を感じさせていただいた2か月間でした。この梅雨明けの沖縄の地で、本全国研修会をばねに更に団結し、解剖学、体表解剖学、そしてこれらの学問を用いた臨床評価や治療法の検証に関して熱い議論を繰り広げ、体表解剖学とその周辺学問や技術の更なる発展につながればと考えます。

会員はもとより、会員外の皆様におかれましても大変有意義な研修会となると考えております。万事繰り合わせてご参集ください。